

食育の芽



第14号 2019.9発行
発行：すみだ食育goodネット事務局

児童館と商店のつながりで生まれた「こども商店街」

子どもたちが、店主の商品へのこだわりや、つくり手の想いに触れ、販売を通して人とふれ合う体験の場をつくりたい。そんな想いがつながり墨田区内の児童館、商店、すみだ食育goodネット、区が協力して、1日だけオープンする「こども商店街」。今年もその準備のために、墨田区内の全児童館の担当者が集まり、話し合いが行われました。「こども商店街」は、2015年6月開催の「第10回食育推進全国大会inすみだ2015」からスタート。その後も毎年実施され、墨田区内の全児童館の子どもた

ちが参加する取組に成長しました。「こども商店街」では、「事前学習」を大切にしています。本番前に協力店を訪問。店主の話を聞き、商品について学びます。そのため、各児童館の担当者は、協力店への依頼、事前学習に関する打ち合わせ、商品の発注なども行います。これまでの経験と昨年の反省を、今年取組に活かすため、打ち合わせが行われました。この取組をサポートしてきたすみだ食育goodネット（以下goodネット）のメンバーも参加しました。



子ども商店街当日のようす



坂本せん餅の店主坂本俊明さんが、自店の商品を販売する子どもたちを励ますために来店

参加児童館(11児童館)

江東橋児童館、さくら橋コミュニティセンター、墨田児童会館、外手児童館、立花児童館、立川児童館、中川児童館、東向島児童館、文花児童館、八広児童館、八広はなみずき児童館

協力店(16店舗)

東あられ本舗、梅鉢屋、かめぼん、Cafe POKAPOKA、カラフルペア、埼玉屋小梅、魚八栄五郎、坂本せん餅、墨田さんさんプラザ、タンゲーラ、バナナファクトリー、みずゞ(立川店)、三善豆腐工房、ももぱん、Le coeur bakery&cafe、北海道十勝

Step 1

販売する商品について学ぶ 店主と出会い「事前学習」

「こども商店街」に参加する子どもたちは、本番前に「事前学習」を行います。目的は、店主の想いや販売する商品の特徴を理解するためです。

店で売られている商品が人の手で作られていること、そして、つくり手の想いを感じる貴重な機会となっています。

この日は、墨田児童会館の子どもたちが魚八栄五郎の店舗を訪ね、自分たちが販売する鶏の唐揚げ、コロッケについて学びました。



子どもたちに説明する魚八栄五郎の佐々木直子さん。「自分が食べていないのに、お客さんに説明できないよね。だから、今日はみんなに試食をしてもらいます」

鶏の唐揚げ作りの見学と試食



コロッケ作り体験



よく手を洗ってから、コロッケの種を好きな形にします。



小麦粉をつけた後、卵にひたしてからパン粉をつけます。



自分で作ったコロッケは、店の人に揚げてもらい、家に持って帰りました。

販売時に使うポップも制作!



事前学習が終わった後、児童館に戻り、学んだことを思い出しながらポップを作りました



完成したポップ

ポップは、こども商店街の当日、店舗に貼られた



Step 2

「こども商店街」で 「お店の人」になる体験を

6月23日、イーストコア曳舟駅前広場で「こども商店街」が開催されました。区内の11の児童館の子どもたちが、16の協力店の商品を販売。各店舗には、子どもたちが手作りしたポップが貼られ、にぎやかで楽しい雰囲気でした。

子どもたちは、積極的にお客さんに声をかけ、事前学習で学んだことをもとに、商品の説明をします。その熱意が伝わったのか、ほとんどの店の商品が完売しました。



開店準備をする子どもたち。みんなで協力して商品の位置と並べ方を確認していました。



大きな声でお客さん呼び込む



お客さんの話を真剣に聞く



大人たちも力を合わせてサポート

「お店の人」になる体験で、どんなことを感じた？

お客さんが最後の1個を買ってくれたとき、すごくうれしい気持ちがこみ上げてきました。

最初は緊張して声を出せなかったけど、お客さんが増えてきて、声を出せるようになりました。

人の温かさを感じました。一生けんめい説明すると、たくさん商品を買ってくれて、そう思いました。



保護者の方の感想

家で声を出す練習をして、だんだん出るようになりました。電卓も練習していて、本番を楽しみにしていたようです。今日の本番では、家とは違う子ども的一面を知ることができました。

こういう体験は大事だと思うのですが、させる機会がないのでありがたいですね。みんなイキイキと呼び込みをされていて、お客さんも気持ちが動くのでは、と思いました。

北海道十勝地域の 商品も販売!

墨田区は、現在、北海道十勝地域との連携・交流事業を進めています。その一環として、十勝地方の商品も販売されました。この日販売したのは、十勝アルプス牧場の牛乳で作られたミルクジャムや、その他十勝産の飲むヨーグルトなどです。



子どもたちが十勝の商品を販売

食育人に 会いに行こう

今回は、墨田児童会館の館長
八重田裕一朗さんに話を聞き
ました



八重田 裕一朗さん

2013年より墨田児童会館の館長。good
ネットの理事も務める

goodネットの会員になって一番
の収穫は「新たな形のつながり」を
体験できたことです。

6年前、私は墨田児童会館に着任
しました。「すみだ農園」の取り組み
は2年目でした。取り組みの目的は
「地域のコミュニケーションを深める
ため、一緒に野菜を育てて一緒に食
べる」。当館の前庭でもトマトを栽培
し、穫れたトマトをみんなで食べる
「収穫祭」をすることになったんです。

goodネットのメンバーだけでなく、
学生さんや地域の方などにも集
まっていたいただき、何度も打合せを
しました。忙しい方が多いので、いつ
も全員が集まれるわけではない。素
晴らしいと思ったのは「来られる人
だけで、できる範囲のことをやる」と
いうスタンスです。「重荷にならない
つながり」という感じで、だから現在

まで活動が継続したのでしょうね。
新しい方も参加しやすいので、毎年
新たな挑戦をすることができたのだ
と思います。

食育活動を通して、歯科医師や企
業さんとのつながりが生まれまし
た。おかげで、当館で実施する講座
にも講師として協力していただきま
した。また「すみだ青空市ヤッチャ
バ」とのつながりから、千葉県で田
植え体験もできました。

昨年、「児童館ガイドライン」が改
正され、児童館に求められる役割が
広がり、よりきめ細かな対応が求め
られることになりました。私たちだ
けでできることには限界がある。
goodネットの活動に参加すること
で生まれた「新たな形のつながり」
は、今後の児童館の活動になくては
ならないものだと思います。



6/23の「こども商店街」で開始の合図
のベルを鳴らす八重田さん

総会 特別講演 食でつながるコミュニティ ～青空市と学童保育事業の事例から～



中山 勇魚さん

自身の経験を通して、家庭環境で人
生が左右されないための仕組みを
模索。2014年に「こどもたちのための
放課後」の実現を目指し、民間学童
保育「Chance For All」を立ち上げた



5月21日に開催されたgoodネットの総会では、特別講演が
行われました。テーマは「食でつながるコミュニティ～市場・
学童を事例に～」。講師は、民間で学童保育事業を運営する
「Chance For All」の代表理事中山勇魚さんと「すみだ青空市
ヤッチャバ」の事務局細田侑さんです。お二人からは、日頃の
活動の中で、『食を通してどのようにコミュニティが生まれて
きたか』について話がありました。その内容から、改めて「食」
には人と人を結びつける力があることを確認できました。

細田 侑さん

高校時代の島留学や東北での復興支
援をきっかけに地域活性化やまちづく
りに興味を持ち、現在は「すみだ青空
市ヤッチャバ」の運営や、離島の活性
化、水辺のまちづくりなどに関わる

